

☆作業日あれこれ

定例作業日は5月と言うのに肌寒い作業日となり、クマなどもいつもより1枚多く着込んでの参加となりました。参加者の顔ぶれを見ると定番のない陶芸家やハムスト村突撃隊長の顔が見え、下草の機械刈班のメンバーには不自由なしですが、お昼にある種の不安を感じてしまいました。この方達は翌日もハムスト村まつり準備の工房周りの草刈りがあるそうで、突撃隊長のお言葉では「明日は早朝から在所の草刈り、その後ハムスト村の草刈り、今日から飲んでばかりや!」となります。作業小屋では、施設ができた時に当時の助役から寄贈頂いた冷蔵庫がダウ、新しい冷蔵庫となりましたが、もちろん中にはビールが冷えています。



西村さん観察会デビュー

観察会の担当は新人西村が担当し、木道経由で森に出発です。花の時期が過ぎかけているエビネ(海老根)の前でエビネのような形の根とはどんな形なんだろうかと考えることになりました。最終的にギャラリーの中で実際にエビネの根を手に行っているに違いない盆栽お宅が説明してくれました。木道沿いのこの群落はクマのバート・ウォッチングの師匠がこの森の上流にあたる自宅近くの愛知川河辺林で採取された物で正確にはこの森の自生種ではないこと、また培地培養で増やし森に戻したエビネは対岸の種子であることなどをクマが捕捉しました。森の生態系調査をした時に見つけた群落はわずか一群落、それも水路工事予定地になっており緊急避難をしたのですが、結果は思わしくなく種子もなかったもので、対岸で見つけた種子を育てることにしたのです。その後、この森では5群落前後の自生株が見つかり、今でも同じ愛知川河辺林とはいえ他からエビネを入れた措置が正しかったのかと悩む日々です。観察会では森の奥まで移動して自生株と見比べましたが、それぞれに個体変異があり、明らかに遺伝情報が相違しているかということはDNA鑑定でもしなければ不明というのが正直なところ。観察会では、盛りを過ぎつつあるヤマツツジと咲き始めたモリツツジの花も見ましたが、今年

はヤマツツジの木は開花状況が思わしくありませんでした。原因は不明ですが、年による巡り合わせとでもしておきましょう。来年もこんな調子なら照度の調整などが必要になるかもしれません。観察会には取り上げられませんでした。この頃、森ではあるドラマが今年も進行していました。それはクマの営巣と巣立ちです。作業日には巣立ちしたばかりの雛が樹上に見かけられ、その近くにはそっと雛を見守る親鳥の姿もありました。クマは昼間にはカラスの攻撃を受けることが多く、親鳥も必死なのです。それに加えてこの時期のクマは、雛を守るためにあの鋭い足の爪で近づく人の顔をめがけて攻撃することもあり人にとってとても危険な生き物で、観察会の対象にはできません。春の森のコンサートの夜には鳴き声が聞こえたそう。この森がクマが餌を採り子育てができる生態系の豊かさを持った自然になっていることはとても嬉しいことですが、そっと見守りたい自然のドラマです。



協力してよもぎ餅づくり

さて、今月の作業は草刈班は先月に紹介したカアオの群落周辺を刈り残しながら(照度調整のため)ササ刈り、心配したユリの群落も刈り払わずに残っておりました。突撃隊長は気を遣う作業で、気分転換に昼のビールが欠かせませんとおっしゃっておりました。竹林整備は、5月末のみどりのつどいのために、愛知川河川敷へつながっている野神さん付近の枯れた竹や折れた竹を中心に整理しました。イタヤエドの周辺では林床が明るくなって雨後の竹の子のように生えてきたアゲダモ退治が行われておりました。このアゲダモは野球のバットに使用される木で、資源不足のために植林運動など実施されていますが、このエリアでは邪魔者なのです。炭焼窯では、今回は焼成に自信有りの炭を製品としての箱詰めと竹酢液の蒸留が炭焼名人を中心に行われていました。お昼は豆御飯、肉じゃが、パスタとトマトとチーズの焼き物など、アゲには申し分ない料理でありましたが、節度を持っていただき午後の作業に入ることができました。

6月の作業日は

6月27日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は6月6日 午後7時頃～

6月9日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)
主 催 者 : 遊 林 会

連絡先 (遊林会事務局) : 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索！

暑いなあと思わず声が出るほどの陽気となった第4水曜日は19人で作業。この日は森の整備以来、自然に生えるに任せていたハヨ池周囲のヤギの伐採からスタートです。このヤギたちは実生から自然に生育し、ハヨ池の周りに適度な日陰を作ってくれたのですが、水際に生えていたために石組を割ったり土の下に敷いている防水シートを破損する可能性もあったので、いずれ切らねば…と思っているうち10年が経ってしまったのです。

わずか10年ですが、成長が早いヤギはかなりの大木になっていて、枝葉の量も半端ではありません。全員で伐採や枝の運び出しを終え、午前中だけで5本程度の木を切りました。

一方、マルは単独で別作業を実施。それはこの冬にみんなで移植したナガシヤヤギの苗木周辺の草刈りです。ゴボリ抜き状態で移植した苗木ですが、そのほとんどが無事に活着して育っています。しかしクズやサ、ノイバラなどあらゆる先駆種が苗木を埋め尽くさんばかりに育っていたので、草刈り機ですべて刈り取りました。

昼前に草刈りを終えたマルがヤギの伐採現場に出向くと、予定に無かったクズを伐採中ではありませんか。何でクズを切るの？と担当スタッフの篠原に聞くと「え！ヤギだと思っていました…」とのこと。切ってしまった木は元に戻りません。まあ、このクズも防水シートを突き破る勢いで育っていたので切って良しとするか…と考えることにしました。が、今度から作業を任せるスタッフには口頭の指示だけでなく、一緒に細かく確認すべきと改めて思いました。

お昼は煮込みハンバーグに麻婆豆腐、切り干し大根、豆サラダ、味噌汁など豪華でした。

伐採も終わった午後からは、全員でヤギ広場にてサなどの下刈りをしました。草刈り機と手刈りによる丁寧な作業のおかげで、かなりすっきりしました。

☆5月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。5月は1回の活動を行いました。

5/17 7人 林内各所の枯れた木や折れた木などの伐採をしてもらいました。

6月は14日と21日が活動日です

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

5月に入ってから、学校の対応やいろんな事業がスタートし、大わらわの日々が始まっています。

ゴールデンウィークには、いつものクイズラリーと少し趣向を変えた「河辺いきものの森・ゴールデンウィーク」を行いました。森のあちこちに「〇〇をやってみよう！」というお題が設置しており、クリアできたら一緒に置いてあるスタンプを集めていくというス

タンプラリー形式です。ゴールデンウィークはあまりお天気に恵まれませんでした、それでも71名に参加してもらえました！スタンプを集めながら、新緑の森を楽しんでもらえたんじゃないかと思います。今回のスタンプは全て、器用さが自慢のスタッフ2名の力作です！

今月は毎日のように学校が森を訪れ、子どもたちの声がとても賑やかです！6月も同様にたくさん学校や園が来てくれるので、子どもたちのパワー&暑さに負けないようにしていきたいです！

☆H24年度モリイコ！スタート

今年度のモリイコ！は、去年の参加者を対象としたモリイコ！Sと、従来のモリイコ！のコースで実施しています。そのうちモリイコ！は、30名の定員に対して145名の応募があり、抽選会を行って参加者を決定しました。たくさん応募していただけるのは本当にありがたいことなのですが、当然ながら落選してしまう子どももたくさん出てしまうということで…。そこで、今年が応募の最後のチャンスとなってしまいう小学3年生の落選者を対象に、抽選なしで参加できるイベントを行うことにしました。

モリイコ！もモリイコ！Sも、ともに第1回目に活動がスタートしました。モリイコ！Sは春らしい物をたくさん集めてお重いっぱい詰めて、お互いに披露し合いました。いきものがたくさんのお重あり、レアウトにこだわり抜いたお重ありと、それぞれの個性あふれる「春」がたくさん詰まっていました。そして、自分たちで摘んだ花びらでお餅作りも行いました。お餅を手でこねるのが手がべちゃちゃになって大変そうでしたが、最後は楽しそうに家族の分のお餅も作っていました。

モリイコ！は、やはり知らない子ばかりということもあり、はじめは緊張した表情が多く見られました。しかし、ゲームや探検とプログラムが進んでいくうちにどんどんうち解け、掴んだいきものを見せ合ったり、笑顔が増えていきました。いろんな葉っぱがあることを知るために葉っぱのパズルに挑戦してから、森でお気に入りの葉っぱをさがしてしおりを作りました。選ぶ葉っぱから画用紙の色まで様々で、いろんなしおりができていて賑やかでした！

☆6月の作業は…

今年の筍はだいぶ遅いようですが、退治すべき細竹などはたくさん出ています。蚊もいますからそろそろ蚊取り線香必須ですね。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！